



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	取手市立六郷小学校 1年（11名） 2年（15名） 3年（10名） 4年（26名） 5年（23名） 6年（17名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（特別活動） ② 行事名（東京オリンピック・パラリンピック教育講演会・交流会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○パラスポーツ競技者の講演、体験・交流活動を通して、東京オリンピック・パラリンピック教育を推進するとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続しようとする意欲を養う。 ○おもてなしの心の大切さを学ぶことで、様々な人を温かく受け入れようとする意欲を高めるとともに、他者を思いやる心を育てる。
5 取組内容	(1) ゴールボール選手による講演会、体験・交流活動（全学年対象） ① 実施日 平成30年11月26日(月) 10時30分～12時20分 ② 講師 東洋大学4年生 山口 凌河 氏 他協力者2名 ③ 内容 ア 山口氏による自身の体験を含めた講演 イ コミュニケーションを高めるための交流活動 ・アイスブレイクによるリラックス ・言葉を使わずに身振り手振りなどでコミュニケーションを図り、グループを作る活動 ウ ゴールボール体験 4～6年生が3～4人のグループに分かれ、山口氏の指導のもとにローテーションしてゴールボールを体験 ・基礎的なルールの説明 ・スローイングの仕方 ・ディフェンス時の身体の使い方 ・声のかけ方 等
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【金メダルの重さを実感】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【アイマスクを付けてスローイング】</p> </div> </div>



【互いに声をかけてブロック】



【児童の感想発表コーナー】

山口氏は、技術的を高めること以前に、何よりも相手とのコミュニケーションを図ることが大切であると児童に指導した。体験活動の当初は、児童は戸惑っていたが、次第に互いの名前を呼んで、声をかけ合ってボールをパスするようになり、コミュニケーションの大切さを実感していた。見学していた低学年の児童も、高学年の一生懸命なプレーを応援し、拍手を送っていた。

#### ④ 感想

- ・目が見えなくても音でボールの方向を判断して、相手のスローイングをブロックできる山口選手がすごかった。
- ・アイマスクをしてボールを投げるのが最初は難しかったけれど、教えてもらえて、楽しくできた。
- ・ゴールボールを見て、コミュニケーションをとることがとても大切だということがわかった。
- ・障害があっても、工夫することでみんなが楽しめるスポーツがあることがわかった。
- ・ゴールボールがどういうものなのかがよくわかった。今度、自分もゴールボールをやってみたい。
- ・東京パラリンピックでは、日本のゴールボールの選手が金メダルを取れるように応援したい。

#### (2) 「おもてなしの心」講演会（全学年対象）

##### ① 実施日 平成31年1月16日（水）

午前10時30分～午後12時20分

##### ② 講師 筑波大学客員教授 江上 いずみ 氏

##### ③ 内容 講演「グローバルマナーとおもてなしの心」

東京オリンピック・パラリンピックのホスト国の国民として様々な人々とおもてなしの心で接することが大切であること、それを表すためにどのようなことが実践すればよいか具体例から学んだ。

##### 【「おもてなしの心」の基本】

- ・「表情」 アイコンタクト、笑顔で相手に接する。
- ・「態度」 常に相手のことを考え、相手に喜んでもらえるように尽くす。
- ・「身だしなみ」 それぞれの国に伝統的な服装があり、それを正しく身に付けることで、おもてなしの心が表現できる。
- ・「言葉遣い」 相手を思いやる言葉をかける。
- ・「挨拶」 グローバルな挨拶の仕方を知り、相手の目を見て挨拶をする。

おもてなしの心を表すための基本について、客室乗務員としての経験から実例を挙げ、体験活動を交えての講演だったため、児童にとって深

い学びとなった。講演の最後には、江上氏が体育館の出口に立って、児童一人一人に声をかけ、それに対して児童が「ありがとうございました。」と分離礼で応える姿が見られた。今後、児童が成長していくうえで大切なマナーを身に付けることができた実りある講演会となった。



【スライドを使っの説明】



【体験活動による説明】



【児童の感想発表】



【児童一人一人への挨拶】

#### ④感想

- ・相手の目を見て笑顔で挨拶をすることが大切だとわかった。
- ・外国には様々な挨拶の仕方があり、握手は世界で通じる挨拶であることがわかった。また、ノックの回数にもきまりがあることがわかって驚いた。
- ・これからは家族や友達に対しても感謝する気持ちを伝えていきたいと思った。
- ・今までお店の人に何かをしてもらった時に「ありがとう」と言っていなかったことに気付いた。これからは言ってみよう。
- ・東京オリンピック・パラリンピックで世界の人々が日本に来たときにはおもてなしの心で迎えたい。

#### 6 主な成果

##### (1) 児童へのアンケートの結果

①オリンピックに興味がありますか。	とてもある + ある	74.2 %
②パラリンピックに興味がありますか。	とてもある + ある	72.0 %
③社会や人のために役に立つことをしたいと思いますか。	とても思う + 思う	79.6 %
④外国の人々の暮らしや習慣などを調べてみたいと思いますか。	とても思う + 思う	72.0 %

##### (2) 成果

- 東京オリンピック・パラリンピック推進事業が始まる以前はどのような競技が行われるか知らなかった児童が多かったが、ゴールボールに実際にふれたことで、興味・関心をもつことができた。
- 講演や体験活動を通して、障害があってもスポーツを極める人々がいることを知り、パラリンピックを応援しようとする意欲をもつことができた。

	<p>○仲間を信頼し、コミュニケーションを図って意思疎通をすることの大切さを学び、互いを思いやることがよい集団をつくる基本となることを知ることができた。</p> <p>○パラスポーツの素晴らしさやゴールボールの選手の頑張りについて知ったことで、児童が自分の夢をもち、それに向かって努力を続けていくことが大切であると感じることができた。</p> <p>○「表情」「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「挨拶」がおもてなしの心を表す基本であることを知り、実践しようという意欲が高まった。</p> <p>○日本の伝統的な文化を学び、外国の人に紹介することができるようにすることも「おもてなしの心」であることがわかった。</p> <p>○分離礼、握手の仕方、ノックの仕方など、グローバルマナーについて学んだことで、様々な国の人におもてなしの心で接することの大切さを知ることができた。</p> <p>○相手に感謝の気持ちを伝える「ありがとう」という言葉の大切さを認識することができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック推進事業を進めるにあたり、各学級において、教材「I'm POSSIBLE」を用いて授業を行い、スポーツを楽しむことにおいて人間は平等であることの理解を深めた。</p> <p>○児童がパラスポーツを身近に感じ、応援する気持ちをもつことができるように、講師を取手市出身のゴールボール選手である山口 凌河氏に依頼し、自らの体験を語ってもらった。</p> <p>○講演とともに体験活動を取り入れることで、児童のパラスポーツへの興味関心を高め、東京オリンピック・パラリンピックを支えたいという意欲をもたせるよう工夫した。</p> <p>○「おもてなしの心」講演会において、「表情」「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「挨拶」の5つの項目を立てて話をさせていただくことで、児童が具体的にどのような行動をとることでおもてなしの心を表現できるか明確になるようにした。</p> <p>○挨拶の仕方や礼の仕方などを児童に体験させることによって、その大切さを知り、実践につなげることができるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○パラスポーツ選手は講演の依頼が多く、学校だけで人材を確保するのは大変難しい。パラスポーツ選手を講師として招く際に、窓口があればもっと依頼しやすいと感じた。「人材バンク」等があり、連絡が取れるようにすると助かる。</p> <p>○今年度2回の講演で、児童は、東京オリンピック・パラリンピックについて興味・関心をもつことができたが、来年度以降どのように効果的に教育を推進していくかが課題である。</p> <p>○パラスポーツをもっと体験させてみたいが、用具が高価なものが多く、学校単体では購入できないことは課題である。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関心をもち、応援しようとする意欲を継続させるために、指導教材を活用して授業を実践する。</p> <p>○東京オリンピック・パラリンピックで行われる様々な競技について映像を使って学習することで、スポーツへの理解を深めていく。</p> <p>○「おもてなしの心」講演会で学んだことを生活で実践できるように、全職員で共通理解を図って指導していくとともに、総合的な学習の時間や外国語活動の時間を使って、グローバルマナーについての理解を深めていく。</p>